

👑 英語「真」読解力養成バイブル 👑

英文
速読・速解テクニック

SAMPLE

サクセス外語アカデミー

精読 ・ **精解** から
essence reading / essence comprehension

速読 ・ **速解** へ
efficient reading / effective comprehension

*本資料教材は、鷹書房弓プレス刊『速解の英語』を
もとにサクセスにおいて修正・加筆編集したもので
あり、編集後の文責は当アカデミーにあります。

(禁・無断転載／複写)



語順通りに読む

フレーズごとに意味を掴んで読むということは、英語の語順に従って文頭から順々に読み進んでいくことをも意味する。目を行きつ戻りつさせてはならない。英文の内容を読み取ることと日本語に訳すこととは別の次元の問題であって、まずは、書き手の言わんとすることをできるだけ速く、しかも正確に把握する技術の習得に専念すべきである。究極的には、(少なくとも読解や聴解においては)英語を英語のまま理解できるようになればいちばん理想的なのだが、これは日本語だけの環境のなかで育った人には至難の業で、当面は日本語で、或いは日本語と英語のチャンポンでもよい。

フレーズの区切り方は、前にも述べたように一つの「句の段落」を軸とするものの、決して固定的なものではない。大きければ大きいほどよいわけだが、一応の目安は「句」——すなわち、名詞句、動詞句、形容詞句、副詞句など——に置く。それを順々に前から読み進むのだが、いままで和訳オンリーで勉強してきた人のために、「返り点式読み」を避けるためのテクニックを覚えることからはじめよう。

《フレーズごとに読み進めるためのテクニック》

導入部、伝達部はそこだけでまとめて読む：

- ① The weather forecast says / that it will be fine tomorrow.
天気予報によれば / 明日は天気だ。
- ② Father usually often emphasize / that health is above wealth.
父がよく強調していたことだが / 健康は富に優る。
- ③ It used to be said / that Monday's child was fair of face.
昔よく言われたことだが / 月曜日生まれの子は美人だそうだ。

関係詞節は、非制限用法的に読む：

- ① Put the book back / where you found it.
その本を戻す場所は / もとあった所だ。
- ② The river / that flows through London / is called the Thames.
その川は / ロンドンを貫流していて / テムズ川という。
- ③ The dictionary / whose cover is torn / was my father's.
その辞書は / 表紙がちぎれているが / 私の父のものだった。

③ パッセージ・リーディング

前回までに、意味のまとまり（＝句）ごとに頭から読み下していく「フレーズ・リーディング」、続いて、主題文（トピック・センテンス）を軸に論理のまとまり（＝段落）全体を有機的一文と見立てる「パラグラフ・リーディング」とみてきた（☞ ①フレーズ読み 及び ②パラグラフ読み 参照）。そして、一応の終着駅とも言える最終章は、複数の段落を持って書き手の主張がまとめられている文の一節（＝パッセージ）の論理展開を読み取る「パッセージ・リーディング」についてである。



二つの段落から成る文章

基本的には一つの段落の文章と同じで、主題文とその支持文（補足説明・実例・まとめ）から構成されるが、論理の展開の仕方をやや大きくして、二つの対立する考え方を統合したり、二つのものを比較・対照してみたり、前後の話や主張を繋ぎつけてエピソードをつけ加えたりする時などに用いられる。前回同様、例を挙げながら見ていくこととする。

例題 1

“When I read I keep a dictionary at my side. As soon as I come to a word I don't know, I look it up right away. Then I go on reading.”

You've heard people say this, or perhaps you've used this method yourself because you thought it was a good way to learn words. However, stop-and-go reading destroys the continuity you must maintain if you are to achieve full comprehension. Your primary objective is to get the author's ideas quickly and to enjoy the other features of his writing. You can't do that if you interrupt yourself every minute to look up the meaning of a word.

話の導入として引用文を用いている。その引用文が最少限ではあるが、まとまりを持っているので1つの段落にしたわけである。特に主題文があるわけではなく、第2段落の最初の文の this と this method に受け継がれていることからわかるように、話の糸口として使われているだけである。しかし、引用文が直接話法の文であることに注意したい。直接話法の文というのは、間接話法に直した叙述式の文と異なり、具体的で生き生きとしているところにその長所がある。この書き手はそれを上手に利用している。



トピック・センテンスを探る

パラグラフ単位の読解作業においては、トピック・センテンスと他の文とを峻別し、パラグラフ読解の軸となる主題を素早くとらえることが、まず最も重要な課題となる。それさえ確実に行なえば、8割がた理解できたも同然である。それに続くのが主題を支持する部分であり、主題に反するような内容の文が組み込まれるはずはないのであるから、論理の展開を予測しながら気楽に読みすすめばよい、ということになる。

では、主題文をどのようにして探せばよいのか、主題文はパラグラフの中のどの位置に置かれるのか、そこに焦点を当てて考察してみよう。

(1) トピック・センテンスが冒頭にあるもの

最も多い型である。冒頭で自分の意見・主張を述べることによって、あらかじめ読者に論点を明確に示し、その後の支持文で論証していく方法で、演繹的方法とも言える。冒頭に主題を述べることは、読者に鮮明な印象を与え、そのまま読者を引きつける効果がある。これは全体から部分へと論理を展開する欧米人の典型的な発話・思考法であって、パラグラフの8割はこの型であると言ってよい。

Americans admire the self-made man—the man who, with neither money nor family influence, fights his way to the top. Lincoln was born of poor parents. He had little opportunity for schooling. But as he grew older he studied law in his spare time. His ability finally made a name for him, and he became President of the United States.

冒頭の **Americans admire the self-made man** が topic sentence である。しかし、the self-made man (独立独行の人) と言っても、やや抽象的な表現であるため、ダッシュを用いて補足説明を加えたのが the man who, ...fights his way to the top (苦闘して最高の地位まで上る人) である。その後で、リンカーンの example を引いて論証している。

【訳例】アメリカ人は元来、独立独行の人を称賛する。すなわち、金もなく、有力な家系の後押しもなく、苦闘して人生の頂上を極めた人である。リンカーンは貧しい両親の下に生まれた。彼には教育を受ける機会はほとんどなかった。しかし、成長するにつれて、余暇には法律を学んだ。彼の才能はついに彼に名を成さしめ、彼は合衆国の大統領になったのである。



三つ以上の段落から成る文章

文章の段落が三つ以上になると、まとまりある文章としての体裁が一層よく整い、文章全体としていわゆる論文形式をとることが多くなる。すなわち、序論・本論・結論という形である。段落が増えれば、それは本論の部分が増えることになる。とは言え、それはいろいろな角度から様々な検討・論証が加えられてふくらむだけのことで、基本的には序論・本論・結論という論旨の（英語の）直進的な進め方は変わらない。図式化すれば次のようになる。

《三段落以上の文章の構成》

Structure of Argument

